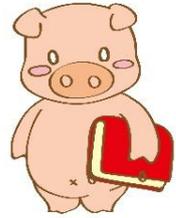




# らいぶらりい

倉吉北高校図書館  
2018.2.6



2月4日は立春。暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続く様です。今月は行事も多いので風邪を引かないよう気を付けて過ごしましょう。



今年に入って2回目の積雪。1月は寒かった印象ですが、平均気温が3.6度と昨年と比べて0.4度低かったそうです。

また、過去のデータによると、観測史上での最低気温は、1981年2月26日の-7.4度、積雪の最高は、1947年2月22日の129センチ。(観測地：鳥取市)いずれも2月に記録を出しています。そして、降雪の記録の最も遅い日が2010年4月15日。まだまだ寒いですね～ (出典：理科年表平成28年)

- 「天気と気象 異常気象のすべてがわかる！」  
気象予報士佐藤公俊著 学研
- 「これならわかる！科学の基礎のキソ 気象」  
田代大輔監修 丸善出版
- 「理科年表 平成28年第89冊」  
国立天文台編 丸善出版
- 「てんきごじてん 風・雲・雨・空・雪の日本語」  
鈴木心写真 ピエ・ブックス
- 「空の名前」高橋健司写真・文 角川書店

## 本屋大賞 ノミネート作品

- 「AX アックス」伊坂幸太郎著 KADOKAWA
- 「かがみの孤城」辻村深月著 ポプラ社★
- 「キラキラ共和国」小川糸著 幻冬舎★
- 「崩れる脳を抱きしめて」知念実希人著 実業之日本社
- 「屍人荘の殺人」今村昌弘著 東京創元社
- 「騙し絵の牙」塩田武士著 KADOKAWA
- 「たゆたえども沈まず」原田マハ著 幻冬舎★
- 「盤上の向日葵」柚月裕子著 中央公論新社
- 「百貨の魔法」村山早紀著 ポプラ社
- 「星の子」今村夏子著 朝日新聞出版

以上10作品がノミネートされました。今年は何の作品が選ばれるのでしょうか。発表は4/10(火)！ぜひノミネート作品を読んで自分なりの大賞を選んでみてくださいね！

★は図書館にあります

学級文庫を設置しています。各クラス10冊程度です。管理は図書委員会が行います。必ず自分のクラスの学級文庫を利用してください。他のクラスの文庫の本を持ち出さないこと、学級文庫の本を独占しないこと(その都度文庫に戻す)を守ってください(紛失防止のため)。文庫に入れてほしい本がある場合は、図書委員にリクエストをしてください。

# 新 着 図 書

「お前しか見えてないから」 青山そら著
「たゆたえども沈まず」 原田マハ
「5分間で心にしみるスターリー」
「5分後に後味の悪いラスト」
「5分後に感動のラスト」
「今日、恋をはじめます」 高瀬ゆのか著
「トワイライト 哀しき新生者」 ｽﾌｻｰﾆｰ・ﾒｲﾔｰ著
「2.43 清陰高校男子バレー部 代表決定戦1, 2」 壁井ユカコ
「英語検定4級 集中ゼミ」
新試験対応「英語検定2級 集中ゼミ」
「英語検定準2級 集中ゼミ」
「英語検定3級 集中ゼミ」
「まんがでわかる サピエンス全史の読み方」 山形治生監修
「謎トキ日本史写真・絵画が語る歴史」 阿部泉編著

今年はいくさんのリクエストをいただきました。ありがとうございました。ライトノベルやケータイ小説、また話題の本のリクエストが多くあり、本への興味関心があることを知り、とてもうれしく思いました。



冬はあったかいお鍋が食べたいですね。それともあたたかなスープに焼きたてのパン？  
食べ物屋さんや舞台の本を紹介します。美味しそうなご飯やお菓子が登場します！

- 「和菓子のアン」 坂本司著・・・デパ地下の和菓子店「みつ屋」。季節のお菓子がたくさん。
- 「パティシエの秘密推理 お召し上がりは容疑者から」 似鳥鶏著・・・喫茶「PRIERE」
- 「最後の晩ごはん」 榎野道流著・・・定食屋「ばんめし屋」営業時間は日没から日の出まで。
- 「幽遊菓庵春寿堂の怪奇帳」 真鍋卓著・・・和菓子屋「春寿堂」妖しご用達のお店。
- 「珈琲店タレーランの事件簿」 岡崎琢磨著・・・珈琲店「タレーラン」女性バリスタと珈琲。
- 「真夜中のパン屋さん」 大沼紀子著・・・ブランジェリー「クレバヤシ」23:00~5:00 営業
- 「鴨川食堂」 柏井壽著・・・「鴨川食堂」お好みの料理の味、探します。



世界は一冊の本 長田弘

本を読もう。  
もつと本を読もう。  
もつともつと本を読もう。

書かれた文字だけが本ではない。  
日の光り、星の瞬き、鳥の声、  
川の音だつて、本なのだ。

ブナの林の静けさも、  
ハナミズキの白い花々も、  
おおきな孤独なケヤキも、本だ。

本でないものはない。  
世界というのはいかに開かれた本で、  
その本は見えない言葉で書かれている。

ウルムチ、メッシナ、トンブクトウ  
地図の上の一点でしかない  
遥かな国々の遥かな街々も、本だ。

そこに住む人びとの本が、街だ。  
自由な雑踏が、本だ。  
夜の窓の明かり一つ一つが、本だ。

シカゴの先物市場の数字も本だ。  
ネブド砂漠の砂あらしも、本だ。  
マヤの雨の神の閉じた二つの眼も、本だ。

人生という本を、人は胸に抱いている。  
一個の人間は一冊の本なのだ。  
記憶をなくした老人の表情も、本だ。

草原、雲、そして風。  
黙つて死んでゆくガゼルもヌーも、本だ。  
権威をもたない尊厳が、すべてだ。

200億光年のなかの小さな星。  
どんなことでもない。生きるとは、  
考えることができるということだ。

本を読もう。  
もつと本を読もう。  
もつともつと本を読もう。